

# 日野市気候市民会議の 実施について

気候市民会議 2023年7月  
日野市環境共生部環境保全課



## 気候市民会議 令和5年度のスケジュールイメージ



①

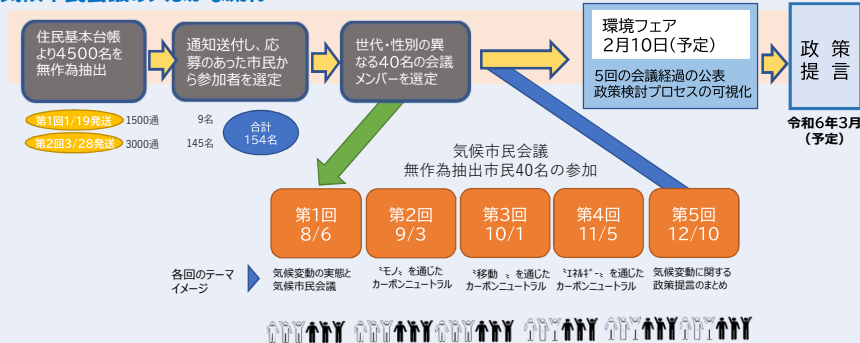
気候市民会議の全体概要の確認

### 日野市の気候市民会議と令和5年度の大まかな流れ

#### 気候市民会議とは・・・

これまでに無作為抽出市民へ1月に1回目、3月に2回目の通知を発送し134名から参加希望、日野市の人口構成・男女比に合わせて40名の参加市民を抽出、8月から12月まで毎月「気候市民会議」を開催  
年度末までに政策提言を纏める

#### 気候市民会議の大まかな流れ



各回、4時間程度、前半で専門的知見を持つ講師や脱炭素の課題への事業者の取組みなどを学び、後半でワークショップ形式で熟議し、投票による政策提案を行う。

## 日野市気候市民会議 全5回の会議の流れ



② 各回のテーマ、講師、連携する企業、各回の会場

第1回（8月）全体像説明（江守先生、三上先生、日野市）  
気候変動の科学的知見とリスクの共有、気候市民会議の意義・目的など

第2回（9月3日）モノ  
生産（製造）と消費（販売・購買）、使用と廃棄

第3回（10月1日）モビリティ  
（ヒト・モノの移動）交通・物流と移動の目的

第4回（11月5日）エネルギー  
（住まい・暮らし、仕事と遊び人の活動全般）

第5回（12月10日）まとめ

- ・気候市民会議全体のアドバイザーとして国立環境研究所の江守氏と北海道大学の三上氏に依頼。  
東京都公立大学法人の山本理事長へ全体の助言を依頼。なお、江守氏と三上氏は第1回に直接参加予定
- ・前半を学びの時間とし、各回に有識者を招いて情報提供。可能な限り、企業、地域団体からも情報提供をいただく。
- ・気候市民会議のアウトプットとして、日野市の環境政策への政策提言を目指す。
- ・来年2月に開催予定の環境フェア（イオンモール内で実施）において、気候市民会議で挙げられた政策提言を発表する場を設ける予定
- ・2月の発表の場か、少なくとも今年度中に政策提言に対して日野市の姿勢を示す

## 気候市民会議講演有識者候補と連携団体の想定



② 各回のテーマ、講師、連携する企業、各回の会場

回数（テーマ）	有識者候補	企業候補 ※各回1～2事業者
第1回 8月6日（日） イオンモール多摩平の森	江守先生、三上先生  	
第2回 （モノ） 9月3日（日） 日野市役所505会議室	山口真奈美氏 （一般社団法人日本サステナブル・ラベル 協会代表理事） 持続可能なサプライチェーン、エンカル消費 サステナブルライフスタイルの提案 	セブン&アイ【確定】 消費・購買 日野市資源リサイクル協会【確定】 廃棄・リサイクル （有）駒沢産業
第3回 （モビリティ） 10月1日（日） 日野市役所505会議室	井原雄人氏 （早稲田大学スマート社会技術融合研究 機構研究員客員准教授） 所沢市気候市民会議 「モビリティによる脱炭素化への選択肢」 	日野自動車【確定】 人流の取り組み 佐川急便【確定】 物流
第4回 （エネルギー） 11月5日（日） 多摩動物公園	磐田朋子氏（芝浦工業大学副学長） 科学技術振興機構低炭素社会戦略センターを 経て、2017年に芝浦工大システム環境学科に着任。 2023年2月に芝浦工大初の助成副学長に就任。 	東京ガス【確定】 ※脱炭素に向けた協力協定の相談あり 富士電機【調整中】

## 気候市民会議 第1回プログラムのイメージ



③ 第1回の流れと会場のイメージ

③ 第1回の流れと会場のイメージ	9:00	準備		
	12:50	応援職員集合 受付開始		
	13:15	会議開始 オリエンテーション等	前半2時間「学び」 テーマに関する基礎的な知識の習得 (認識レベルの一致)	
	13:17~	市長挨拶		
	13:20~	ガイダンス (アオイ環境)		
	13:25~	諸力融合の枠組みと気候市民会議の狙い (日野市)		
	13:40~	ガイダンス		
	14:00	①テーマ1 (20分)		後半2時間「熟議」 様々な立場・視点から十分な議論を尽くし、政策の提案 8方向性)を纏める
		三上先生「気候市民会議の意義」		
	14:20	自己紹介+アイスブレイク (30分)		
15:00	②テーマに関するレク (40分)			
	江守先生「気候変動の現状とこれからの社会」			
15:40	ここまでの感想、疑問点の共有 (40分)			
16:20	感想、疑問点の発表 疑問点に対する回答 (40分)			
	5分×6グループ 質疑応答のまとめ			
17:00	閉会			
17:15~	終了			

## 気候市民会議 情報共有クラウドのイメージ



④ クラウドによる情報共有について

気候市民会議の実施と合わせ、市民と行政でデータを共有するクラウドプラットフォームを立上げ、会議後の参加者同士のコミュニケーション、情報共有等を可能にするツールとして活用します。

クラウド上にバージョン管理がされた最新の資料がいつでも閲覧・入手できる  
様々なデータニーズに対応でき、参加者同士のコミュニケーションも可能

